

令和6年度
中野市立中野平中学校
被爆地派遣事業報告書（長崎市）



① 「原子爆弾の恐ろしさ」

松島 丈士

② 「長崎で学んだこと」

山田 拓未

③ 「中学生被爆地派遣事業へ参加し、感じたこと」

片山 奏子

原子爆弾の恐ろしさ

中野平中学校 3年
松島 丈士

8月の8日から10日に、中野市の代表として副会長とともに長崎県に行きました。着いてすぐに青少年ピースフォーラムに参加しました。そこでは被爆者の松尾幸子さんという方のお話を聞きました。被爆当時、松尾さんは小学生だったそうです。松尾さんのお話ではアメリカ軍から毎日のように行われた爆撃により学校に行くのもとても大変で、学校で習うことは勉強ではなく、空襲から身を守る方法を教えてもらっていたそうです。そして原子爆弾が投下された時、松尾さんは爆心地から約1.3キロメートル離れた山で被爆したそうですが、あまりの威力に、爆弾が自分たちの真上に投下されたと当時は思っていたそうです。町にいた人々は、原子爆弾の3,000度から4,000度もの熱線によりひどい火傷を負い、誰かわからないほど皮膚や体が剥がれてしまっていたそうです。そして、松尾さんは原子爆弾の放射線による影響で、今もなお、病氣と戦っているそうです。松尾さんの通っていた国民学校では、生徒1,500人のうち、翌年までに1,300人の方が亡くなったそうです。最後に松尾さんは、このようなことを私たちに訴えていました。「愚かな戦争はもうしないでほしい、核兵器を一刻も早く廃止してほしい」と。私は戦争の怖さを深く知りませんでした。しかし、松尾さんのお話から、原子爆弾の恐ろしさ、戦争の愚かさを教えてもらいました。

その次に長崎原爆資料館に行きました。ここでは被爆当時の写真が展示されており、特に私が驚いたものは、11時2分で止まっている時計です。五つほどの時計が展示されていましたが、全ての時計が11時2分ちょうどで止まっており、原子爆弾によるものすごい速度の熱風の恐ろしさを物語っていました。他にも、熱で根本からぐにゃぐにゃに曲がった鉄製のやぐらや、原子爆弾の熱線が人によって遮られ人の形の影がついているものもありました。原爆資料館では、原子爆弾のあまりの威力に崩れてしまった建物の跡の写真や、全身が熱線によるひどい火傷を負った人の写真など、写真で当時の被害を学ぶことができました。

2日目はまず長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に参列しました。式典ではこの1年間で亡くなられた3,200人が登録された死没者名簿を納め、これにより198,785人の方のお名前が奉安されました。他にも式典では献水をしていました。被爆時に火傷を負い、水が飲みたいと思いながら息絶えた人々の慰霊のために行われているそうです。長崎平和宣言では、長崎市長が、原爆の後遺症と戦いながらも原爆の悲惨さを訴えた福田須磨子さんの詩を紹介していました。その詩の内容は、私の心にとっても響きました。他にも、平和への誓いや児童合唱の「あのこ」などを聴き、平和を思う多くの人々の願いに共感しました。

式典のあとのピースフォーラム平和学習では、全国各地から集まった中学生と高校生で班になり、戦争・喧嘩の原因と、それらをなくすにはどうすればいいかを話し合いました。私は戦争のことについて話し合うグループだったので、まず原因について話し合いました。国を豊かにするために資源や領土の奪い合いが起こること、各国の文化や見た目の違いから意見の相違が生まれること、他国から国を守る手段の一つであることなどが、戦争の原因であると意見が出ました。解決策として、再生可能エネルギーを積極的に世界で取り入れる、資源が豊かな国が貧しい国に支援する、リサイクルなどの3Rを積極的にしていく、という意見が出ました。文化や見た目の違いでは、自分の意見を言うだけでなく相手の意見もしっかりと聞く、相手の立場になって考える、お互いのことを尊重するなどの意見が出ました。最後に安全については、核兵器を廃止する、世界連合のような世界で安全を保障し合うなどの意見が出ました。意見交換会では、全国各地の中高生と平和について意見を深め合うことができました。

私たちは、中野市の代表として被爆地である長崎市に行き、資料からでは分からない戦争の本当の恐ろしさを肌で感じることができました。被爆地派遣で学んだ戦争、原子爆弾の恐ろしさから目を背けず、中野平中学校の全校生徒に伝えたいと思います。

長崎で学んだこと

中野平中学校 3年

山田 拓未

私は被爆地である長崎を実際に自分の目で見て、改めて戦争や原爆の悲惨さを感じました。また、全国から集まった学生の皆さんと平和とは何かについて考える大切な時間を過ごすことができました。

1日目の青少年ピースフォーラムでは被爆体験講話として松尾幸子さんの話を聞きました。話の中で原爆が投下された時の様子を知り、松尾さんの言葉に胸が締め付けられる思いでした。特に印象に残った話があります。原爆が投下された時、松尾さんの家族は山に避難していましたが、松尾さんの父親は一緒におらず、生きていのかどうかわからなかったそうです。しかし、全身に大きな怪我を負いながらも父親と再会することができ、とても喜んだそうです。この話から、命があり今を生きているということだけで喜びに思えるし、決して当たり前ではないことだと学びました。また、学校に通えたり安全な水が飲めたりするだけでも、恵まれた環境に感謝すべきだと考えました。

原爆資料館では原爆を受けた実物のものや写真を見ました。形が大きく変わったガラス瓶や、爆風や熱風によって亡くなった子どもの写真でした。そこから、たった一発の原爆の威力と、その恐さを感じました。

2日目には原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に参加し、長崎市長の世界に対する訴えを聞きました。「長崎を最後の被爆地にする」という言葉から、今後二度と同じようなことを起こしてはならないという強い思いと、平和への切実な祈りを感じました。長崎の経験から世界に向けて、原爆の恐ろしさや今でも多くの被爆した人々が後遺症に苦しんでいるという事実、核戦争の恐ろしさや核の開発をやめるべきだという声を発信することが、平和な世界の実現につながると考えました。そして、私たちがこれからの未来のために戦争の悲惨さを伝えていくことが、少しでも世界平和に貢献できることだと思いました。

平和学習の意見交換会では、班の仲間たちと「ケンカや戦争の原因とそれらをなくすためにはどうすればいいか」について考えました。初対面の仲間でしたが、全員が真剣に考え、話し合いがしやすい雰囲気でした。また、自分では思いつかなかった意見や考えなどを聞き、多くの視点から捉えて考えることが出来ました。そして私たちの班の話し合いでの結論として、原因は自分勝手に決めつけてしまっていること、なくすためには相手の立場になって物事を考えることにまとまりました。短い時間でしたが平和についての理解が深まり、自分が成長できる充実した時間を過ごせました。長崎への被爆地派遣で学んだことをこれだけに終わらせず、自分の人生やこれからの平和のために活かしていきたいと思っています。



中学生被爆地派遣事業へ参加し、感じたこと

中野平中学校 3年

片山 奏子

私は今回中学生被爆地派遣事業に参加し、1日目は、被爆体験講話、被爆建造物などのフィールドワーク、原爆資料館の見学を行いました。2日目は、長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典への参列、意見交換会を行いました。

最初に、松尾幸子さんによる被爆体験講話がありました。思いだすだけでもつらいはずなのに、みんなに核のおそろしさを知ってもらうため、細かいところまで必死に伝えようとする松尾さんの姿を見て、私と同じ立場だったら絶対に無理だと思いました。核はおそろしい、戦争はしてはいけないということを伝えたいという強い気持ちがあるからこそ、この講話があるんだなと感じました。

今、被爆者の高齢化が進んでいると聞き、いずれ被爆者が亡くなってしまった時どうするんだろうという疑問が浮かびました。しかし、参加者の一人が言った「私たちが受け継いでいきます」という言葉や、ピースボランティアの方々の、戦争の悲惨さを伝え継いでいこうという思いが伝わってきて、自分も伝えていけなくちゃいけない、他人ごとに考えてはいけけないと思いました。

次に、平和公園の周りがある原爆に関する建物や像などを見てきました。その中でも一番衝撃的だったものが、長崎刑務所 浦上刑務所跡です。爆心地から一番近い公共の場所で、130人以上の人がいましたが、全員亡くなってしまいました。当時ここには、日本人だけでなく、朝鮮人や中国人などもおり、被爆しても十分な治療を受けられず、亡くなってしまいました。被爆した人は日本人だけではないということがわかりました。

1日目の最後に、原爆資料館へ行きました。目を逸らしたくなるものがたくさんありましたが、これは現実にあったことで、今も被害に苦しんでいる人もいると展示にも書いてあったので、自分からちゃんと向き合っていかなければいけない事実だということを実感しました。

2日目の午前中、長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典へ参列しました。ここ長崎で実際に、水がほしいと言って亡くなってしまった人たちがたくさんいたという事実を知りました。式典では、献水が行われるなど、水に関することが多く行われていました。それに加えて、平和公園には、水に関するモニュメントが多いということも知ることができました。

午後は、意見交換会がありました。戦争・ケンカが起る原因と、戦争・ケンカが起きないようにするためにはどうしたらいいかを考えるため、同じ中高生と話し合いました。考えが一緒だったり違ったり、いろいろな意見がでました。「相手を知ること」や、「話し合いをしてみる」など、身近なことに通じているものもあったので、なるほどと思うことがたくさんありました。自分が困っている時に助けてくれたり、アドバイスしてくれたり、みんな優しい人ばかりで、人に優しくする、思いやりの心をもつことも戦争の解決につながるのかなと思いました。最後にMy平和宣言を書きました。とても悩みましたが、「自分も相手も大切にする」にしました。この意見交換会を通じて、いろんな人とつながったり、話し合ったり、交流を深めることで、新しい考えや思いなどを発見することができたし、たくさんを知ることのきっかけにもなりました。一人ひとりが少しでも相手のことを知ろうと歩み寄ることで、戦争が起きないようにできると考え、さらに自分のこともちゃんと理解することで、相手の考えが一緒だった時に思いきり喜べたり、より相手のことを知りたいと思えるのではないかと感じました。まずは自分を知って 相手も自分も大切にしていくことで世界は平和になると考えました。

最後にこの3日間を通して、今まで知らなかった原爆の恐ろしさや、悲惨さなどを知ることができました。そして、戦争について他人事にはしてはいけない、自分の耳で聞いて、目で見て戦争について自分なりに考えてみるのが大切だと感じます。自分が考えてもと思うかもしれませんが、私たちにできることは率先してやっていかないといけないと考えます。